

～ 地域の産業と大学等が渾然一体となって、イノベーション創出に取り組む産学連携体制を推進 ～

取組状況

◆ 産学官連携のあり方検討

- ー 産業界、大学など、それぞれの立場で産学連携のあり方について、検討が進んでいる。

【産業界】

マツダ、広島大学、中国経済産業局、広島県、広島市、ひろしま産業振興機構、広島大学は、トップミーティングを開催し、マツダを中心に、2030年の未来シナリオを検討する中で、TOC(theory of constraints)理論に基づく産学連携活動のビジョンを検討中。

【広島大学】

経済産業省の「産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業」により、産学連携活動の定量評価モデルを調査中。(効果的な産学連携のあり方を、レーザー加工技術をモデルに検証)

【広島県】

海外の産学連携の先進事例など参考となる方策を調査中。

◆ 産学連携の具体的な進展事例

- ー 広島大学とマツダ(2011年包括的連携に関する協定)進捗状況について、金井会長から情報提供
- ー 広島大学と常石造船(2004年包括的研究協力の覚書)10年間で57テーマの共同研究。成果は新造船に活用。(『産学官連携ジャーナル』(2014年10月号)で紹介)

今後の方針

◆ 産学連携シンポジウムの開催(県主催)

(日時) 平成26年11月27日 14時から17時まで

(場所) ホテルグランヴィア広島(広島市南区)

(内容)

【基調講演】 上山隆大(慶應義塾大学総合政策学部教授)
〔総合科学技術会議・科学技術イノベーション政策推進委員会委員・中央教育審議会大学分科会組織運営部会専門委員〕

【講演1】 住川雅晴(産業競争力懇談会実行委員長)
〔株式会社日立製作所顧問(広島県出身)〕

【講演2】 川上伸昭(文部科学省科学技術・学術政策局長)

【パネルディスカッション】 上記のメンバーに加え、広島大学学長、
広島県知事、マツダ技術研究所所長

◆ 「新たな産学連携」のあり方提示

- ー 地域の大学と産業界が渾然一体となって連携していくための新たなビジョンを提示し、産学官で共有する。
- ー 産業界と大学の資金循環に必要となる寄付金税制や規制緩和などについて関係者と一体となって国に要望する。
- ー 産業界と大学の連携を促進するため、成功事例を紹介するなど、産業界を巻き込みながら、成果が広がるまで粘り強く取り組む。